

インターバンクの声（2014年7月14日）

ポルトガル大手銀行の経営をめぐる懸念がほぼ無くなったことで、市場のリスクセンチメントもかなり改善されたはずだが、豪ドルや英ポンドの小幅な下落が目立った程度で主要通貨に大きな変化は見られなかった。

先週は安全資産としての円買いで101円割れも目前だったドル円相場だが、金曜日には大きく切り返すことがなく、今週の反発を注意深く見て行きたい。月初に開催されたオーストラリア準備銀行（RBA）の理事会では、特に強い文言を用いての豪ドル高への牽制がなかったが、その後、金曜日も含めスティーブンス総裁が、豪ドル相場が高過ぎるとの考えを2度ほど示したことで、豪ドルが0.93ドル台まで下落した。今週も取引の中心が主要通貨に戻ることはなければ、豪ドルの値動きが活発になりそうだ。サッカー・ワールドカップも終わり、今週は米経済指標の発表も数多く予定されており、そろそろ相場にも動きが見られ始めるだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。